



大阪教区 第106 (定期) 教区会

京都教区との協働及び合併に関する検討委員会設置などを承認

大阪教区第106 (定期) 教区会は11月23日 (水・勤労感謝の日) 午前9時から主教座聖堂・川口基督教会で行われた。大西修主教司式の開会礼拝・聖餐式に引き続き、議事に入った。

午前は常置委員会報告、教区局報告、総務部・宣教部・諸委員会報告が行われた。引き続き関連学校・諸施設関係

①『大阪教区会計規則・給与規則・慶弔見舞金規程』改正



の件、②『大阪教区・京都教区との協働及び合併に関する検討委員会』設置の件、③『2012年度大阪教区一般会計予算(案)』承認の件3議案が全て可決・承認された。続く常置委員選挙では、聖職常置委員に山本眞、岩城聰、磯

晴久の各司祭が、信徒常置委員には長野泰信、佐野信三、畑野めぐみの各氏が選出され、総会代議員には山本眞、岩城聰、両司祭と長野泰信、佐野信三両氏が選出された。議会は順調に推移し午後4時40分に閉会した。(編集部)

大西主教の開会演説

本日、ここに大阪教区第106 (定期) 教区会を開催するにあたり、教役者議員・信徒代議員の皆様方には、休日の貴重なお時間を割いてお集まりいただき、心から感謝申し上げます。実りある教区会になりまますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さに向かう被災地の方々、福島原発の事故による放射能汚染の危機に曝されている方々のことを、また今日この日に、多くの困難を抱えつつ仙台で開催されている東北教区教区会のこと祈りのうちに覚えたいと思います。

体のありようを求めて、「日本聖公会の現状と課題を分かち合い、これからの日本聖公会の宣教に関する方針と方向性を提示する」ことゝが掲げられています。激変する世界の厳しい状況下にあつて、主イエス・キリストの十字架の愛と復活の命に生かされる共同体としての信仰に立ち、真の喜びの福音を宣べ伝えて行くための具体的なビジョンを作り上げること、教会が社会から求められている宣教とは何かを具体的に提示すること、そして世界の平和の実現のため、命を尊ぶための働きに、教会が具体的な行動によって関わって行くことが模索されます。

東日本大震災によってクロームアップされてきた、原発の問題、放射能汚染の問題も宣教協議会との関わりの中で看過できない問題になって来ました。管区の「いっしょに歩こうプロジェクト」の働

さて、未曾有の東日本大震災から7カ月を経、地震と大津波によってもたらされた深い心の痛み、悲しみ、悩み、苦しみ、そして今なお続く厳しい現実の中で、これから寒

昨年箱根で開催された「プレ宣教協議会」を踏まえて、2012年9月14日(金) 17日(月)「宣教協議会」が浜松で開催されます。この協議会の目的は、宣教する共同

きも、全聖公会として取り組んでいく課題を多く持つていると思えます。教区間協働を前進的に考えていく突破口になることを期待しています。

来年5月22日(火)から開催される日本聖公会第59(定期)総会も、新たな方向性を指し示すものなるよう願っています。

大阪教区

教区宣教協議会 大阪教区は管区の宣教協議会に先立ち、7月15日(日)、16日(月)の両日、教区宣教協議会を開催いたします。これまで様々な機会に、教区の今後の宣教についての懇談会や協議会がなされてきました。その中で教区の抱えている課題などについては、おおよそ出尽くしているのではないのでしょうか。

教区宣教協議会では、具体的な教区的課題への取り組みについて、優先順序を定め、取り組むための協議会にしたいと考えております。そのために教区宣教協議会実行委員会を立ち上げました。実行委員会を通して具体的な提案等が提示されることを願っております。

ります。これに呼応して、それぞれの教会においても具体的に取り組むべき課題の優先順序を決め、その実現に向けて具体的な準備を進めて行っていたのだと思います。

大阪教区は2013年、教区創立90周年を迎えます。この年を機にたとえ小さくても、新たな歩みが1つでも2つでも動き出すことを期待しつつ、取り組んでまいります。

人権現場研修として来年度は釜が崎宣教の田宮紘執事の指導のもとに、釜が崎現場研修を、そして畑野研太郎医師の指導のもとに、呂久光明園におけるハンセン病についての学びを現場研修の形で行う計画を立ててもらうことを考慮中です。

**聖公会生野センターの働き**  
は来年2012年で創立20周年を迎えます。新たな思いとビジョンをもって、在日韓国・朝鮮人問題や地域社会の問題に取り組むつつ、目の前に生活している弱い立場にある人々と共に歩んでまいります。

本年は、教区内の社会福祉法人の施設が整備された年で

した。博愛社と東光学園の児童養護施設が新築落成いたしましたし、聖ヨハネ学園ミス・ブル記念ホームの隣接地には小規模特養ホームが12月に完成いたします。また聖バルナバ病院は来春、これまでの「財団法人」から「公益財団法人」へ移行するための諸手続きを進めております。

各施設と日本聖公会大阪教区との関係が、これまで以上に内実のある豊かなものになることを願っております。とりわけ、専任チャプレンを2人ずつ派遣している桃山学院、プール学院との更なる交流を考えていく必要があると思われま。

#### 教区間協働

##### 「京都教区との協働関係」

今教区会に大阪・京都両教区の常置委員会が、同じ議案「大阪教区・京都教区の協働及び合併に関する検討委員会」設置の件を提出しております。これが可決されますと、協働関係の大きな前進になると思えます。

教会奉仕者のための学びは第Ⅱ期目（2年目）に入って

おり、京都教区ウイリアムス神学館特別出張講座として、「新約聖書入門」（黒田裕司祭）、「世界の聖公会の歴史」（岩城聰司祭）が隔週に、大阪聖パウロ教会を会場に行われています。

##### 台湾聖公会との協働関係

9月25日の教区礼拝において第3期協働関係締結書に調印いたしました。もう1歩、前進した形での協働関係を築いていきたいと考えております。

##### 東日本大震災被災者支援の働きについて

東日本大震災被災者支援の働きは、神戸・大阪・京都3教区協働関係のもとに進められてきました。4月から6月までは「日立ボランティア・センター」が開設され、その後、8月23日からは小名浜へセンターを移し「聖テモテ・ボランティア・センター」として立ち上げ、来年6月まで活動が続けられます。勿論、管区の「いっしょに歩こう！プロジェクト」の協働関係の中でその働きは進められています。

皆さまのお祈りと温かなご支援により集められた救援物資は、現地までボランティアの方々によって運ばれ、多くの被災者に配布されました。ボランティアとして現地でのワークに携わってくださった方々は延べ100名以上になりました。これからもよろしくお願いしたいと思います。

さて、長期化する厳しい世界の経済状況は、日本経済にも多大な影響を与えており、日本聖公会の管区、各教区、各教会の財政にも少なからぬ影響を与えていることはご承知の通りであります。このような中であって、私は敢えて東日本大震災の被災者救援・支援募金5,000万円（2011年度教区一般会計予算は4,200万円）を、来年3月末までの期限付きで皆さまにお願いたしました。阪神・淡路大震災、新潟県中越地震の体験から「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」（ローマ12・15）のみ言葉を、身をもって実践する使命が与えられていると信じ

たからであります。信徒の皆様

さまの熱い思いがこれを実現させ、痛みを伴う愛の募金は、その目標額達成の目処がつかしました。年内には約3,000万円が集まると思っています。本当に感謝であります。これを第1次募金いたしました。第2次募金は行わないことになりました。

この募金は主のご用（福音宣教）のため、東日本大震災の被災者救援・支援とそれに関わる働きのため、そして東北・北関東東教区の被災教会や諸施設の復興の働きのために、適正かつ有効に用いられるようにしてまいります。

##### 今年4月以降の人事について

4月1日から千松清美聖職候補生は西宮聖ペテロ教会、奥村貴充聖職候補生は聖贖主教会、古澤秀利聖職候補生は高槻聖マリヤ教会にそれぞれ定住勤務といたしました。

3月31日をもって定年退職された成田邦雄司祭、福田光宏司祭、奥康功司祭、山野上素充司祭は、囑託として主日を中心に引き続きご奉仕願っております。

井上進次執事は5月8日

(日)、公会の司祭に、林正樹  
 聖職候補生は9月3日(土)、  
 公会の執事に聖別されました。  
 モーゼ任大彬司祭の復職を  
 9月1日付けで認可し、主教  
 座聖堂付となりましたが、現在  
 はソウル教区の分かち合いの  
 家で勤務しています。

フランシス趙鍾必司祭は健  
 康上の理由により9月25日か  
 ら休養中です。

義平雅夫聖職候補生は、来  
 春3月までの残り4カ月、ウ  
 イリアムス神学館での学びを  
 続け、4月からは新任地で勤  
 務の予定であります。

フランチェスコ成岡宏晃聖  
 職候補生志願者は来春4月、  
 聖公会神学院に入学するため  
 の準備を始めております。

さて、大阪教区第3代主教  
 として、1963年4月から  
 1975年4月までの12年間  
 にわたり、良き指導者として  
 の働きをなさいましたマルコ  
 小池俊男師父は、102歳の  
 天寿を全うされ、7月28日安  
 らかにご逝去なさいました。  
 主のみもとにおける安息をお  
 祈り申し上げます。

竹内信義司祭と木村幸夫司  
 祭は約40年間、大阪教区のだ

めにお働きくださいましたが、  
 来年3月末をもって、定年退  
 職なさいます。定期教区会へ  
 の議員としては今回が最後と  
 なります。これまでのお働き  
 に対して、深甚の謝意を表し  
 たいと思います。

最後に、2010年度の教  
 勢について申し上げます。

( ) は2009年度

○教役者数「現職」20

主教1 司祭16 執事2

聖職候補生1

○同「退職嘱託」4

主教1 司祭3

○現在信徒数

3,287 (3,267)

○現在受聖餐者数

1,836 (1,873)

○不陪餐者数

544 (494)

○主日礼拝出席者数 918

(939) ー現在信徒数の28

% (28%)

○主日礼拝陪餐者数 775

(789) ー現在受聖餐者の

42% (42%)

○聖信式受領者 36 (28)

○聖洗式受領者 46 (39)

○逝去者 36 (39)

この数字は2009年度と  
 大差はなく、全体として微減  
 状態にあります。

2012年度の目標数とし  
 て2010年と同様、現在受  
 聖餐者2,000人、主日礼  
 拝出席者1,000人、主日  
 礼拝陪餐者800人、聖信式

## 和歌山水害 救援活動報告

聖職候補生 ヨハネ

古澤 秀利

こと。いざ逃  
 げようと外に  
 でると誰もい  
 なかったこと。

9月初旬、台風12号による  
 水害・土砂災害が奈良・和歌  
 山・三重の三県で起こり、京  
 都教区から大阪と神戸両教区  
 に緊急要請が出されました。  
 それを受けて、奥村貴充聖職  
 候補生と共に9月8日(木)  
 の夜から10日(土)まで新宮  
 聖公会へ派遣されました。ま  
 た21日(水)夜から23日(金)  
 まで、石橋聖トマス教会信徒  
 の田中廉さんと新宮聖公会に  
 宿泊し、京都教区の働きのお  
 手伝いをさせて頂きました。

それぞれ短期間の滞在でした  
 が心に残る出会いがありまし  
 た。

及び聖洗式受領者をそれぞれ  
 50人に、不陪餐者を50人減ら  
 すことを挙げたいと思います。

2012年4月には、現職  
 教役者は主教1、司祭11、執  
 事2、聖職候補生4の合計18  
 人となります。そのため4月  
 以降は、大半の司祭が兼任牧

内や熊野川の被災されたお宅  
 に伺い、泥かきや住居の清掃  
 作業を行いました。あるお宅  
 には老夫婦が住んでおられ、  
 二階建て家屋の一階台所の清  
 掃をして欲しいと依頼があり  
 ました。最初はぶつさらほう  
 な口調で説明をされていまし  
 たが、時間が経つにつれて口  
 調が穏やかになり、不安や孤  
 独感、そして大雨が降った日  
 の夜のことを話して下さいま  
 した。

「避難して下さい」と町に  
 放送が流れたが、自分たちは  
 歩くのも難しく、なによりこ  
 こは大丈夫だろうと思ってい  
 たこと。しかし夜中目が覚め  
 ると顔の横まで水が来ていた

師か管理牧師になる可能性が  
 大きくなります。1月には、  
 4月以降の人事異動の公示を  
 出す予定であります。皆様の  
 ご理解とご協力をよろしくお  
 願い申し上げます。  
 これをもちまして開会演説  
 といたします。

被災地の復興にはまだ時間  
 がかかると思います。京都教  
 区の働きのうえに、ことに新  
 宮聖公会の働きのうえに主の  
 導きをお祈りしています。  
 (ふるさわ ひでとし・高槻  
 聖マリヤ教会勤務)

去る11月3日(木・国民の休日)、聖職候補生ヨハネ古澤秀利さんとルシヤ村上恵依子さんの聖婚式が石橋聖トマス教会において、司式・大西修主教、補式・儀晴久司祭、立会人・大西温・暖子ご夫妻のもと厳粛に挙行された。

### ご聖婚おめでとうございます

聖職候補生 古澤秀利さんと村上恵依子さん

ベネディクト 丹羽 正擴

超す大勢の方々が2人を祝福した。松平功司祭が説教をされ、「神の前の結婚を

通して男女は一つとなり、どんな責任であつても2人で分かち合いなさい」と述べられました。

お2人がお付き合いを始めてから7年が経過。その間の思いをかみしめるべく独身最

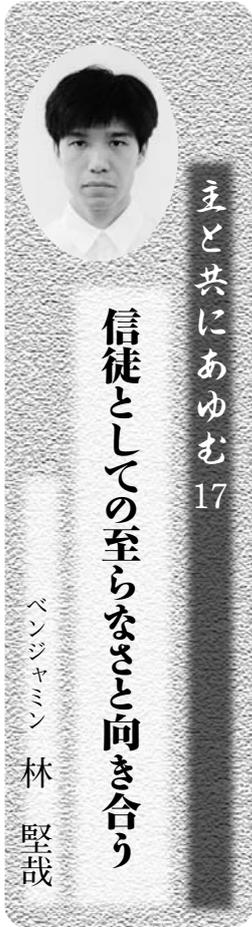


を振り返つて感じられるはず。祝宴ではヴァイオリンとフルートのデュオや子どもたちにメッセージを伝える怪物「グラキチ」の踊りで盛り上がり、たくさん祝福をいただきました。お2人からは

「とても温かい式をしていただき感謝です」と感動と涙のメッセージが述べられました。

後の夜に居酒屋に行かれた古澤先生。隣席のお客さんに「結婚は人生の墓場やで」と脅かされたそうですが、「思いやりと感謝」の気持ちを持っていけば結婚は素晴らしい人生の歩みだったと、過ぎた日々

2人でいることが不思議な感覚です」と初々しいコメントをいただきました。愛のみ神よ、二人の行く手を恵み祝したまえ。(にわ まさひろ・高槻聖マリア教会信徒)



職業柄、赤の他人の結婚式の写真を毎日のように目にし

ている。その全てが「結婚式場」での挙式で、当然キリス

問もなくファッションとして

行っている様に、常々違和感を覚えていた。実のところ違和感どころか、そういった思想信条もないような人々を軽蔑してさえた。そして、自身がクリスチャンだからといってそうした人々を見下している自分に気付くたび、自己嫌悪に陥っている。そもそも私はクリスチャンとしてなすべきことが出来ているのだろうか？

自分とは両親共に信徒であったために洗礼を受け、幼少より両親に連れられ毎週教会に通うのが習慣であった。私が生まれたのは70年代のベビーブームのさなかで、現在も通い続けている高槻聖マリア教会に同年代の信徒が多かったせいもあり、若い頃はこども会・中高生会に参加し、それなりに熱心に信徒としての活動を行っていたように思う。大学在籍時は下宿をしていたこともあり、数年間教会から足が遠のいた時期もあったが、卒業後は実家に戻り、再びマリア教会に通うようになった。しかしその頃には、同年代の信徒達は転居等のためにほとんど来なくなっていた。元來

の人見知りの性格のためか若い世代とは打ち解けられず、はたまた独り者の身故、子どもを通じた親どうしの付き合いといったものもない。まわりの信徒の方々は親切で気さくな方ばかりだが、元々能動的に教会へ通い始めたわけでもなかったせいか、次第に疎外感を感じるようになっていった。今では自身の予定を優先して礼拝を休むことも少なくなく、礼拝中以外で聖書を読む機会もほとんどない。このように今の自分はあまり熱心な信徒とは言えず、自分勝手な正義感ばかり先走ってしまっている。しかし、一応は教会に通い、こうして時には自身を客観視し戒めることが出来るのも、聖書の御言葉に従い、誠実に生きようと努めてきたおかげかと思う。親に連れられ受動的に信徒になったとはいえず、聖書の教えはやはり私の根幹をなすものであり、信徒としての至らなさを自覚しつつ、これからも教会に通い続けることだろう。(はやし けんや・高槻聖マリア教会信徒)



# 京都教区との協働を目指して 聖職と教会紹介 ⑧



司祭 シモン 林 永寅

私は、約2年前韓国のソウル教区より派遣されて京都教区に参りました。韓国で私がしてきた活動は主に貧困住民のための働きでした。司祭になる前の7、8年ほどは工場労働者のための活動をしましたし、司祭になってから7、8年ほどは貧困地域で、最近約5年ほどはホームレスのための活動をしました。

日本へ来て10カ月ほど京都のウイリアムス神学館で生活しながら日本語の勉強をした後、こちらの岸和田復活教会に赴任して1年ほど経ちました。

この間に経験した、困惑したけれども面白かったできごとを紹介いたします。私の名字は「林」です。私と同じ名字が日本にもありますね。

そのせいか郵便配達夫はベルを押しているも「ハヤシ様」と呼びました。初めはそのたびに「『ハヤシ』ではなく『イム』です」と訂正しましたが、毎回そうするのも煩わしいことでした。それで名前をカタカナで書き始めました。ところが面白いことが起こりました。ある日、配達夫がベルを押して「ほとけ様」と呼びました。教会なのになぜ「ほとけ様」？ 分かってみると、カタカナで書かれた「イム様」をその配達夫は「ほとけ(仏)様」と呼んだのです。このできごとは偶然に起きたエピソードですが、私のアイデンティティーを確認させてくれるきっかけになりました。仏教と仏教文化が支配的な日本社会で、キリスト信仰者として、

行くのが正しいのか！  
では私たちの教会を紹介しましょうか。私たちの岸和田復活教会は大阪教区堺聖テモテ教会と密接な関連があります。教会が建てられるようになったのは、1898年当時、堺聖テモテ教会の司祭である山田祐先生の励しがあつたからです。当時設立された岸和田中学校（現在の大阪府立岸



司祭 クレメント 大岡 創

「鞠と殿様」で名高い紀州・和歌山の地に福音の種が蒔かれて130年が経とうとしています。1882年（明治15年）に川口居留地からやってきたT・Sテイニング司祭が幾多の困難のなか和歌山市内に小さな劇場を借りて講演会を催したという当時の記録

和歌山高等学校）に教諭として赴任していた信徒たちがいるというのが分かって彼らを訪問して、「互いに協力して伝道活動に励もうと申し合せてた」のです。2年後、伝道師が定住して伝道を開始し、1901年に教会になりました。教会の歴史とかわって信徒さん皆が大事に覚えているのは、こちら岸和田復活教会がウイリアムス主教の最後の巡回教会だったということですから。そのためか、ウイリアムス主教が携えて洗礼を施していた洗礼盤が教会にあります。今も岸和田復活教会はこの洗

洗礼盤を用いて洗礼を施している、教会の宝物のように大切にしています。ウイリアムス主教の献身的な姿を覚えて、また私たちも献身的な信仰者になるのを神様のみ前に確かめる意味になっていくのです。岸和田復活教会は今年110年の歴史を持つようになりました。その歴史と伝統の上に、神様に認められる信仰者としてもっと深く温かい信仰の歴史を記して行くことを願っております。

（イム ヨンイン・岸和田復活教会副牧師）



和歌山聖救主教会

がありまます。同年、南汀丁に洋館を借り上げて講義所を設けたことが現在の教会の原点になりました。大阪教区との関わりのルーツです。その後礼拝堂が建てられた場所は何度かわり1968年現在地に移りましたが、和歌山聖救主教会は併設のナザレ幼稚園

の働きと共にこの地の人々に福音の光を注ぎ続けてきまし  
(次頁4段目につづく)

### 教区婦人会 秋の修養会に参加して

#### 立山恭子さんの講演を聞く

リディア 森岡 登陽子

主に従っていくは  
 いかに喜ばしき：  
 み跡を踏みつつ  
 歌いて進まん  
 (聖歌四五七)

爽やかな秋晴れの今日、神様はどんな楽しい出会いを私に与えてくださるのでしよう。この大好きな聖歌を心いつぱいに歌いつつ、大阪教区婦人会秋の修養会の会場、西宮聖ペテロ教会に向かいました。

この日10月18日(火)は聖ルカ日、伝統的に医師であると信じられているルカに相応し

い立山恭子姉をお迎えできました。立山恭子姉は、看護師、保健師、助産師として、パキスタン、インド、カンボジア等の途上国において様々なお働きをされました。その貴重な体験に耳を傾け、考える時を与えられた恵みを感謝します。

立山恭子姉は助産師派遣の神の呼びかけに応え「わたしはここにおります」と、途上国における母性看護の第一歩を踏み出されたのです。それは、学生の頃「貧しく医療



に恵まれない国々で働く機会があったら、私はここにおりますと言いたい」と漠然と持っていた思いを現実のものとした時でした。そして、40数年の働きを振り返って「神が神父もいない所に種

を蒔かれた事で多くの人々が恵みにあずかっていると感じています」と話されています。そして今もなお「日々迷いつつ神様に最後まで守ってくださいと祈っております」と。今年、東日本大震災、台風12号と、大きなつめあとを残し、心に大きな傷を負いました。

暗闇行くときに  
 主イエスが示された：  
 とりまく影をぬぐいて  
 光を仰ぎ見よう

最後に全員で力強く歌った聖歌476のように、今こそイエスキリストと共に歩みを進めたいと思います。

当日の参加者 161人  
 席上献金 15万7100円  
 席上献金はシンガポール聖公会(聖アンデレ大聖堂)がカンボジアで実施しているプロジェクト(職業訓練生支援)のためにお献げしました。  
 お世話いただいた西宮聖ペテロ教会の皆様へ感謝しつつ帰途につきました。  
 (もりおか とよこ・守口復活教会信徒)

魂の平安を祈るために

## 阪神・淡路大震災17周年記念 追悼の集い

日時 2012年1月17日(火) 午後7時

会場 西宮聖ペテロ教会

メッセージ 大阪教区主教 大西 修師父

祈りと当教会信徒によるパイプオルガン奏楽・奉唱

入場無料・自由献金あり  
(東日本大震災復興支援のため)

(前頁よりつづく)

た。教会の場所は和歌山城から車で5分程度の所にあり、天守閣に登ると教会の塔が見えます。南海からもJRからも、駅からバス等のアクセスはとても便利です。

かつて入院していた園児の保護者から病室から見える十字架の塔が心の支えになったと聞き、改めて教会および幼稚園としての使命を感じます。礼拝堂は幼稚園と共用です。クリスマスや発表会のシーズンにはチャンネルの部分

が舞台に変身。子どもたちが

思いっきり自己表現する場として有用なスペースです。教会では月一度、信徒が中心となって「み言葉」を共に味わいながら、皆で教会を支えあっているようにと話し合う場を設けています。これから継続していけるようにと願いつつ「いかに美しいことか山々を行き巡り、良い知らせを伝える者の足は。」(イザヤ52・7)の言葉を糧に歩んで生きたいと思えます。

(おおか はじめ・和歌山聖救主教会牧師)

西宮聖ペテロ  
教 会

聖堂に満ちる豊かな音色  
第5回パイプオルガン・コンサート

アンナ 山田 緑



10月2日(日)午後、西宮聖ペテロ教会では神戸国際大  
学オルガニスト伊藤純子氏を  
お招きして第5回パイプオル  
ガン・コンサートが開かれま  
した。当教会のパイプオルガ  
ンは独ボッシュ社製・200  
9年12月に設置されたもので、  
コンサートは春・秋の年2回

近隣へのチラシ配布などの宣  
伝活動を積極的に行い、沢山  
のお客様をお迎えして続けら  
れています。  
今回のコンサートで伊藤氏  
は「さまざまな表現・さまざ  
まな表情」と題し、英・仏・  
独・米と国も年代も多様な作  
曲家のバラエティー豊かな14  
曲を選ばれました。

曲紹介をはさみなが  
ら、1曲1曲が入念  
に考えられたストッ  
プの組み合わせによ  
り、最も相応しい音  
色をつかって奏でら  
れ、聖堂に集った聴  
衆の心に曲のイメー  
ジが音とともに鮮や  
かに広がりました。  
またプログラム中ほ  
どで、聖歌452番  
「神はわが力」をパ  
イプオルガンの重厚  
な音に支えられ、出  
席者全員が声をあわ

聖贖主教会

子どもとたのしむ  
コンサート

マリア 佐野 弘子



11月19日(土)、聖贖主教  
会の礼拝堂は180人の子ど

もと大人で一杯になりました。

せ歌ったこともチャペルコン  
サートらしい雰囲気を感じ上  
げたと思います。  
最後のアンコールでは、バ  
ツハの「最愛なるイエスよ、  
我らここに集いて」が演奏さ  
れ、この場に共に集えた喜び

を演奏者・聴衆共に感謝し、  
秋のコンサートをやかなう  
ちに閉じました。今回の出席  
者は115名、今回は来年5  
月開催予定です。  
(やまだ みどり・西宮聖ペ  
テロ教会信徒)

楽団「アンサンブル・ギリ  
ビッツォ」の7名によ  
る室内楽。曲目はチャ  
イコフスキー作曲「く  
るみ割り人形」(作品  
71a)。  
子どもたちは、おそ  
らく初めて出会ったで  
あろう生のクラシック  
演奏に少し戸惑いなが  
らも、ナレーターが語  
る言葉、「くるみ割り  
人形は、本当はお菓子  
の国の王子様で、7つ  
の頭を持った悪いネズ  
ミの王様に魔法を掛け  
られているのです」

というあたりから身を乗り出  
して聴いていました。  
魔法が解けて喜ぶお菓子の  
妖精達の踊りになると、自然  
と手拍子が起こり、演奏者も  
苦笑い。有名な「花のワルツ」  
でクライマックスを迎え、ブ  
ラボーの声高らかに拍手があ  
ふれました。最後に楽団の伴  
奏で「きよしこのよる」を歌  
ってお開きとなりました。  
おみやげに教会婦人たちが手  
作りのクッキーが全員に配ら  
れました。

このコンサートには、博愛  
社の養護施設・保育園、そし  
て博愛社学園幼稚園に大きな  
ご協力を頂きました。  
天気予報で雨が予想され、  
何とか晴れに…と祈りました。  
でも当日は予報通りの大雨。  
玄関から2階礼拝堂まで、子  
どもたちの体から滴り落ちる  
雨しずくに、何枚もの雑巾が  
活躍しました。  
聖歌468番にある「み恵  
みの雨よ、この身にふりかか  
りてよ」の歌詞通り、溢れる  
恵みが降り注がれたことでし  
た。本当に感謝の一日でした。  
(さの ひろこ・聖贖主教会  
信徒)

児童養護施設  
博愛社

### 竣工感謝礼拝・記念式典

テモテ 大野 定利

博愛社が長年の念願であった児童養護施設の改築を終え、10月28日(金)に、「ウイリアムス館」と名づけられた新館の竣工感謝礼拝と記念式典が、大阪教区大西修主教の司式により執り行われました。「共に育みあう生活」をコンセプトとして、創立時から守り続けている養育単位の小規模化した、家庭に近い養育空間を取り入れた建物になっています。自立訓練室、親子生活訓練室、さらに屋上庭園の隣に心理相談室を併設して「心のケア」「自立支援」「家族との再統合」にも配慮された空間を目指しています。木々がそよぎ、花々が四季を飾る中庭を中心に、子どもたちにとって憩いの場となる生活空間が演出された新たな博愛社の表情が見られることでしょう。



「ウイリアムス館」の入り口で、まず目に入るのが、ハナミズキのレリーフ。ハナミズキは春に花をさかせ、4枚の花びらが十

字架に見えることからイースターツリーとも呼ばれています。博愛社のシンボルマークは「新芽とハートマーク」枝と葉が「成長」を花が「愛」を表しています。子どもたちの心に愛が育まれますようにと願いをこめています。真新しい住空間の中、子どもたちの新しい生活がいよいよ始まります。

博愛社での最初の建物が、

### 第8回 聖公会「手話」関係者の集い

ハンナ 井上恵美子

標記の集いが9月18日(日)〜19日(月)の2日間、広島復活教会に於いて開催され、大阪教区から手話の会「つたえて」のメンバーとして4人



ウイリアムス主教が所有されていた東京教育院の社屋を寄付されたものでした。昭和の初めに改築され2代目ウイリアムス館となり、この度、新館が3代目のウイリアムス館として生まれ変わりました。今、「先人の努力を継承し未来へ」という言葉が新鮮に心に響いてきます。

(おおの さだのり・博愛社 児童福祉施設施設長)

出席することができました。1日目は開会式の後、佐伯啓子さん(広島復活教会信徒)の被爆体験をお聞きしました。お話の冒頭に、3月の大地震と津波の被害がご自身の体験と重なるところがあると話されたことが、辛さの全てを語っているように思いました。今回の学習内容は前回に引き続き「冠婚葬祭シリーズ第2回・葬送式」ということで、式文のことは、聖書・詩編の手話表現について話し合いました。祈祷書の文章はとても

難しく意味深いのですが、手話で表せる言葉は非常に少なく、それでも聞こえない人に誤解なく伝える方法をひとつひとつ話し合いました。2日目には中村豊主教が同席され、細かな解説をして下さったのがとてもうれしいことでした。手話を言語と認める改正障害者基本法が8月に成立しました。大阪教区の私たちは以前から手話通訳が必要な人がいつ教会にいられても対応できるようにと、毎月学びの時間を持っています。しかし他教区ではこうもいかないので、全国から手話関係者が学びのために集まるのがとても重要な機会となります。今回は集いへの呼びかけ方法がメールに変わったためか、前回よりかなり少ない集いとなりましたが、小林司祭始め10人近い信徒のご協力によりスムーズに進行され、また楽しく学びの時間が持てました。次回開催時にはもっと多くの参加者と交流を深め、更なる手話通訳の研鑽に努めたいと思います。

(いのうえ えみこ・高槻聖マリヤ教会信徒)

# 教 区 の 動 き

## 常置委員会報告

10月26日(第13回定例)

9月16日開催の第12回常置委員会議事録を承認。

### I. 協議事項

\*台風12号による大雨被害を受けた新宮聖公会信徒・保育園関係者の支援金として100万円を京都教区に送ることに決定した。

\*審判廷審判員選任についての主教の諮問にこたえ、主教の考えに同意した。

\*財務委員会からの予算原案を承認した。

\*いわき市の聖テモテ・ポランティアセンターの現地調整者として、11月は大阪教区の服部喜代司(石橋聖トマス教会)が担当する。2012年2月と5月も大阪教区の担当なので、早めに考慮する。

\*第2期東日本大震災救援募金は行わないこととする。

\*菟野の教区所有地売却につ

いて、交渉中であるとの教務局の報告を受けた。売った代金は教区の特別会計・青少年育成資金に入れる。

\*司祭チヨウ・ジョンピルが体調不良のため8月から休養中であり、正式に「9月26日より休養とする」旨の公示を出したとの主教報告を受けた。

この間の恵我之荘聖マタイ教会の管理牧師は主教が務める。

11月11日(第14回定例)

10月26日開催の第13回常置委員会議事録を承認。

### I. 協議事項

\*2012年4月以降の人事について、主教の諮問を受けた。

\*教区会に提出する議案について協議し、常置委員会提案の議案「大阪教区・京都教区の協働及び合併に関する検討委員会設置の件」を確認した。

11月23日(第1回定例)

### I. 協議事項

\*常置委員長及び書記の選出常置委員長に岩城聰司祭を、書記に長野泰信をそれぞれ選出した。

\*次回の常置委員会日程について

2011年12月15日13時〜次回常置委員会時に3月までの常置委員会の日程を決める。



## 祝 受 洗

西宮聖ペテロ教会

サラ 若山 陽子 (10月23日)

川口基督教会

ルシア 前山 真輝 (11月6日)

ヨハンナ 福谷 和美 (11月6日)

クレア 大橋由香里 (11月6日)

大阪聖パウロ教会

インマヌエル 市川 修司 (11月13日)



芦屋聖マルコ教会

テレサ 八木 実幸 (9月18日)

西宮聖ペテロ教会

リベカ 若山 千陽 (10月23日)

サラ 若山 陽子 (10月23日)

川口基督教会

ルシア 前山 真輝 (11月6日)

ヨハンナ 福谷 和美 (11月6日)

クレア 大橋由香里 (11月6日)

アグネス 池内 遥香 (11月6日)

大阪聖パウロ教会

インマヌエル 市川 修司 (11月13日)

## 魂の平安を祈ります

芦屋聖マルコ教会

ミリアム 山根 公子 (10月23日・86歳)

川口基督教会

エリザベツ 松居 和子 (11月8日・92歳)

ヨハネ 田中 佑司 (11月21日・68歳)

大阪聖ヨハネ教会

ルデヤ 為田ナツエ (11月18日・94歳)

ヨハネ 鐘ヶ江 徹 (12月3日・64歳)

西宮聖ペテロ教会

マリア 浅野 ヒロ (11月25日・75歳)

ミリアム 竹村 矩江 (11月28日・84歳)

## 教会・施設の動き

大阪城南キリスト教会

○当教会ではパックスアールン社製オルガンの寄贈があり、12月18日(日)主日礼拝に引き続いて「お披露目コンサート」を開催。演奏は安田哲也さん(東梅田教会オルガニスト)、解説は高橋明子さん。このオルガンは、故荒川百合さん、故荒川千鶴さんの逝去を記念してご遺族から贈呈されたもの。

東豊中聖ミカエル教会

○礼拝堂の改修

礼拝堂の祭壇周辺を大幅に改修した。主な変更内容は祭壇後ろにあった濃赤の幕やコミュニケーションール、壁の腰板などを取り去り、段差も全部で5段あった内3段をなくしてフラットにし、床の絨毯も取り去ってフローリングに変えた。これにより全体に明るく広く、会衆席と一体感が強められた。



大阪聖パウロ教会

○4Fに入居するアジアボランティアセンター(AVC)

と協働して12月3日(土)からクリスマスまで、写真展「みんなのアジア」と17日(土)には「アジアの手

づり市」、「アジアの災害復興支援活動報告会」を行った。アジア・スタディ・ツアー参加者やアジアの諸国と地域に関心のある多くの若者が教会を訪れた。

尼崎聖ステパノ教会

○11月16日〜17日、当教会の

20人が白川郷におられる西田先生を訪ね、再会を喜んだ。○12月4日(日)礼拝後、ミオ・コックス墓地整備を記念して、服部緑地外国人墓地にて感謝礼拝が捧げられた。

プール学院中学校・高等学校

○クリスマス礼拝 12月17日(土) 9:30〜16:00(3回)

(メアリーズホール)

○キャンドルライトサービス 12月20日(火) 16:00〜17:00(清心館)

○成人祝福礼拝 2012年1月9日(月) 11:00(清心館)

ヨハネ学園

○下田部保育園のクリスマス礼拝は12月17日(土)、ヨハネ学園児童養護施設のクリスマス礼拝12月23日(金)

世界の窓

聖公会がバグダットの最後のユダヤ人の救済を求める ウィキリークスによつて「バグダッドにいる7人の最後のユダヤ人」と名付けられた彼

らは、現在、非常に危険な状況に置かれている。2600年前から存在すると言われているその地方のユダヤ人の共同体は、常に民族的迫害に苦しみ、第一次、第二次世界大戦中には1日に180人が虐殺された事もあると言う。そのため、イラクのユダヤ人は1960年代には6,000人程になり、その後も減少し続け現在7人を残すのみとなった。バグダッドの聖公会は彼らを助ける方法を模索中で、世界中に救済を求めて情報を発信している。

(Anglican Communion News Service - Digest News, November 30, 2011)

新主教の強盗被害

ジンバブエのポポンデッタ教区において主教着座式の翌日、新主教宅を強盗が襲うと

いう事件があった。強盗は新主教リンセイ・イホヴ師父に贈られた贈答品やお祝儀の全てを奪い逃走した。この事件の2時間前には、同教区の元財務委員長の家が放火により全焼しており、警察は同一犯の可能性や怨恨など事件との関連性を現在調査している。ジンバブエの聖公会は宣教120年の伝統があり、ジンバブエでは最も主要な教派である。

(Anglican Communion News Service - Digest News, December 1, 2011)

お詫びと訂正

教区報に以下の誤りがありました。関係者の方には謹んでお詫びします。

(420号) ○11頁 「魂の平安を祈ります」中

大阪聖ヨハネ教会 木村大助さんの教名

(誤) ヨハネ 木村 大助 (正) パウロ 木村 大助 (421号)

○12頁 3段目の16行目 貝 実紀さんの読み方

(誤) かい みき (正) かい みのり ○同 30行目 谷本七海さんの読み方

(誤) たにもと ななみ (正) たにもと ななみ

○14頁 3段目の7行目 「教務局長報告」中

(誤) 田中康兄 (正) 田中廉兄

○10頁 大阪教区連合男子会 一泊修養会の見出し 「信徒の働きと教会間の協働」(3つ)

(誤) 「協働」 (正) 「協働」

だれも加はってほしい  
居場所をあげよう

相談窓口  
FAX: 020-4669-9155  
メール: bokkaisien@gmail.com  
電話: 050-5532-8044

(留守電の受付なので  
出来るだけFAXかメールでご連絡下さい。)  
申込み後日こちらからご連絡させていただきます

本人名、教会名、年齢、連絡先、相談したい事をお伝えください。  
日本聖公会 大阪教区 牧会支援委員会

教区関係教役者  
逝去者記念聖餐式

◇ 1月11日 (水) 11:00 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ペテロ 齊藤 壹司祭

- 1日 宣教師 ヘンリー・ラニング (1917 米)
- 司 祭 デイビッド・マーシャル・ラング (1946 英)
- 司 祭 ウイリアム・ロイストン・グレイ (1950 英)
- 3日 主 教 ウイリアム・オードリー (1910 英)
- 司 祭 河合 堯三 (1939)
- 12日 司 祭 ヨセフ 側垣 基雄 (1965)
- 司 祭 ギデオン 小川 博司 (2002)
- 13日 伝道師 三木 八十五郎 (1918)
- 15日 司 祭 パーシー・A・スミス (1960 米)
- 伝道師 寺本 房吉 (1960)
- 19日 司 祭 ペテロ 宇野 秀太郎 (1944)
- 主 教 アーサー・リー (1958 英)
- 伝道師 今泉 頼子 (1970)
- 20日 司 祭 ヒカル 柳原 光 (1994)
- 21日 司 祭 久永 光雄 (1937)
- 22日 主 教 ペテロ 松本 寛一 (1980)
- 25日 執 事 卜部 徳太郎 (1933)
- 30日 執 事 バルナバ 寺沢 久吉 (1945)
- ?日 司 祭 山下 有任 (1903)

◇ 2月8日 (水) 11:00 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ペテロ 松山龍二司祭

- 1日 宣教師 エルザ・M・キーン (1949 英)
- 3日 司 祭 トマス 佐藤 時雄 (1989)
- 5日 司 祭 バークレー・フォーウェル・バクストン (1946 英)
- 8日 宣教師 フランシス・エドワード・ハモンド (1932 英)
- 10日 司 祭 祖山 達三 (1941)
- 司 祭 皆川 晃雄 (1952)
- 宣教師 フローレンス・マリアン・ファジル (1956 英)
- 13日 伝道師 マリア 奥田 ヤス子 (1949)
- 14日 司 祭 J・ハミルトン・クインビー (1882 米)
- 16日 司 祭 ステパノ 久保 登知雄 (1981)
- 17日 司 祭 ジョージ・ヘンリー・ポール 1929 英)
- 19日 伝道師 小橋 かつえ (1964)
- 20日 司 祭 ヨセフ 松岡 安立 (1972)

\*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前 11 時から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

大阪教区

「東日本大震災第 1 次救援募金」

(募集期間: 2012 年 3 月 31 日まで)

27,289,137 円 (11月30日現在)

(目標: 50,000,000 円)

\*各教会で祈りとともに献げられた、大阪教区の献金総額は上記の通りです。

日本聖公会東日本大震災被災者支援活動を  
少しでも知るために

PR-DVD『いっしょに歩こうプロジェクト!』第2弾

日立聖アンデレ・ボランティアセンター

—京阪神 3 教区・東日本大震災救援協働—



☆お問合せ  
東日本大震災災害対策本部長  
木村幸夫司祭(大阪聖愛教会)まで

被災地の痛みを少しでも知るために

『祈りの旅』東日本大震災バス・ツアー (仮称)

日程: 2012年2月17日(金)夜~20日(月)

3泊4日間(車中1泊)

☆参加要項の詳細につきましては、12月下旬に発表予定です。

編集後記

メリー・クリスマス! 教会の皆さんと映画『マリア』を鑑賞した。伝統的なマリアのイメージを払拭する浅黒い少女マリアに違和感を覚えられた方もいた。しかし、アジアの片隅で生まれたイエス様の誕生を再認識する素晴らしい映像であった。梅田茶屋町では、美しいクリスマス電飾や1000人のキャンドル・ナイトが繰り広げられている。街の片隅の教会にも、OJC

クワイア(大阪女学院聖歌隊OG)のクリスマス・キャロルが響いている。隣の部屋では、写真展『みんなのアジア』が開催されている。主催するAVC(アジアボランティアセンター)は、1996年に大阪YMCA(国際社会奉仕センター)が中心になり、阪神・淡路大震災で培われたNGO・NPOネットワークから誕生したもの。へ共に生きる世界をめざして、現在も地道に活動を継続している。(George @ St.Paul's)